

# 第1学年国語科学習指導案

指導者 西 瑞 穂

- I 単元名 げきあそびをしよう  
 学習材名 中心学習材 おおきなかぶ（光村 一上）  
 補助学習材 繰り返しがあがり登場人物が次々と出てくる本

## II 単元の指導構想

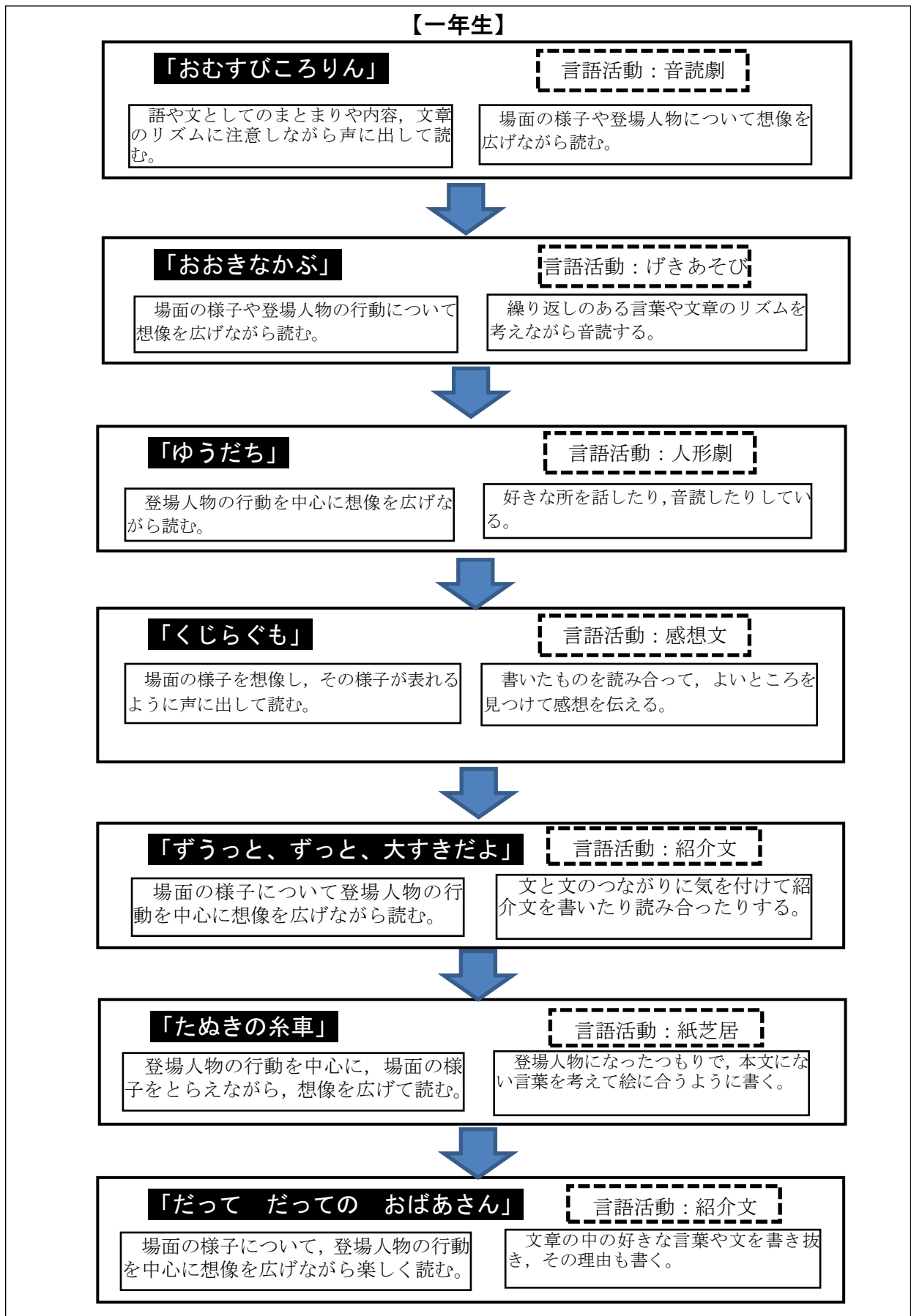
### 1 学習指導要領に示されている指導目標

第1学年及び第2学年の「C 読むこと」の指導目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる」ことである。

### 2 単元について

<p>&lt;学習材（言語活動）について&gt;          本単元では、「C 読むこと」の「ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと」を重点的な指導事項とする。そのために、言語活動例「イ 物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすること」をより具現化し、「繰り返しがあがり登場人物が次々と出てくる本のげきあそびをする」という言語活動を設定する。</p>	<p>&lt;目指す子どもの姿&gt;          ○ 登場人物の行動に着目しながら物語を読み、読み取った行動を掘りどころとしながら場面を想像し、げきあそびに生かしている。          ○ 「おおきなかぶ」や登場人物が次々と出てくる本を読んでも自分の考えをげきあそびを通して交流し、互いの思いを分かち合ったり感じ方や考え方を認め合ったりすることを通して、読みの世界を広げている。          ○ 「おおきな かぶ」や登場人物が次々と出てくる本を読みながら、語のまとまりや言葉の響きを感じながら音読している。</p>
<p>具体的には、「繰り返しがあがり登場人物が次々と出てくる」本を並行読書で読み、その中から自分が選んだ本のげきあそびを行う言語活動を位置付けた。ここで行うげきあそびは、付けたい力をもとに、以下のような観点を設定して行う。従って、本単元でねらう「場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む」ことを実現するのにふさわしい言語活動であると考えた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>げきあそびの構成要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 登場人物・登場する順番</li> <li>② 登場人物の行動</li> <li>③ 動作</li> </ul> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div> <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【既習の力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 主述の意識…①登場人物</li> </ul> </div> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【言語活動を通して付けたい力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 登場人物の行動をもとにして場面の様子をとらえる力</li> <li>…②登場人物の行動</li> <li>③動作</li> </ul> </div>	<p>&lt;単元の目標&gt;          (1) 関心・意欲・態度          ○ 繰り返しがあがり登場人物が次々と出てくる本を進んで読んだり、登場人物の行動をもとにして場面の様子を想像したりしながら楽しんでげきあそびをしようとする。          (2) 読むこと          ○ 語のまとまりや言葉の響き、リズムに気を付けて音読をすることができる。(Cア)          ◎ 場面の様子について、登場人物が出てくる順番や行動を中心に想像を広げながら読むことができる。(Cウ)          (3) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項          ○ 文の中における主語と述語との関係に注意することができる。(イ (カ))</p> <p>&lt;単元の評価規準&gt;          (1) 国語への関心・意欲・態度          ア 音読の楽しさに気付いたり、動作を交えて表現したりしようとしている。          (2) 読む能力          イ 語のまとまりや言葉の響き、リズムに気を付けてながら音読をし、げきあそびに生かしている。          ウ げきあそびをするという目的をもって、登場人物の行動に気を付けて読み、場面の様子を想像している。          (3) 言語についての知識・理解・技能          エ 主語と述語とが照応することが大切であることを意識して読んでいる。</p>
<p>&lt;復興教育（三つの教育的価値）との関連&gt;          1 生命の大切さや心のあり方について【いきる】「③価値ある自分」との関わり          「おおきな かぶ」を読み、体の大小や姿形にとらわれずにかぶをぬくために力を合わせる登場人物たちの行動から自分の存在を認め、必要とされる存在であると感じ取り、自分自身を大切に作る気持ちをもつことができるようにする。          2 人のきずなの大切さについて【かかわる】「⑨仲間や地域の人々とのつながり」との関わり          「おおきなかぶ」を読み、さまざまな登場人物の行動を確かめていくことによって、互いに支え合う仲間の大切さや地域の方々の方々のありがたさを実感できるようにする。</p>	

3 学習の系統（「読むこと」（文学的文章）の関連と発展）



III 指導計画及び評価規準（7時間扱い）

次	時	主な学習活動	指導上の留意点「読み直し」のポイントと内容	評価規準と評価方法
一	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師のモデル（げきあそび）を見て、繰り返しのある本のげきあそびをするという学習のめあてをもつ。</li> <li>学習計画を立て、単元の学習の見通しをもつ。</li> <li>「おおきな かぶ」の範読を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師のげきあそびを見ることによって単元の学習に対する意欲を高める。</li> <li>単元のゴールを確かめ、それに向かうための過程を確認しながら教師とともに計画を立てる。</li> <li>どのようなげきあそびをしたいのか考えさせる。</li> </ul>	<p>ア げきあそびの仕方を確認し、繰り返しのある本のげきあそびをするために、学習計画を進んで立てようとしている。</p> <p>【学習ノート及び発言】</p>
くりかえしのある本のげきあそびをしよう。（単元のゴール）				
二	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>「おおきなかぶ」の登場人物の行動からかぶの様子を想像する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物の行動を表す言葉や会話文から登場人物の気持ちを考えさせ、挿絵と合わせながら場面の状況を想像し、かぶのイメージを膨らませる。</li> </ul>	<p>ウ 登場人物の行動、会話文、挿絵から場面の様子を想像している。</p> <p>【音読及び発言】</p> <p>エ 主語と述語を照応させることに気付きながら読んでいる。</p> <p>【サイドライン】</p>
		<b>登場人物の行動を読み直し、かぶの様子を想像する。</b>		
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>「おおきなかぶ」の登場人物の行動に着目して、かぶをぬこうとする様子を想像する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>かぶをぬこうと踏ん張る様子からかぶにかかる力の入り具合の軽重をイメージさせる。</li> <li>次の登場人物を呼んで来るまでの様子を想像させる。</li> </ul>	<p>ウ 登場人物の行動や会話からかぶをぬこうとしている場面の様子を想像している。</p> <p>【音読及び発言】</p>
		<b>かぶをぬこうとする登場人物の行動を読み直し、かぶにかかる力の様子を想像する。</b>		
	4 本 時	<ul style="list-style-type: none"> <li>「おおきなかぶ」の登場人物の行動をもとにして、かぶがぬけたときの様子を想像する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気持ちを合わせて引っ張った様子からかぶがぬけたときの喜びを想像させる。</li> </ul>	<p>ウ 登場人物の行動から最後まであきらめずにかぶをぬこうとする様子やぬけたときの喜びを想像している。</p> <p>【音読及び発言】</p>
		<b>かぶがぬけるまでの登場人物の行動を読み直し、かぶがぬけたときの喜びを想像する。</b>		
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>「おおきなかぶ」のげきあそびを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音読や動作に場面の様子を想像したことが表れるようにさせる。</li> </ul>	<p>イ 学習したことを生かして、音読や動作を工夫してげきあそびを行っている。</p> <p>【げきあそび】</p>
三	6 7	<ul style="list-style-type: none"> <li>並行読書の中からげきあそびを行う本を決め、練習する。</li> <li>並行読書で読んできた繰り返しのある本のげきあそびを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面の様子を意識して音読や動作を考えることができるよう、登場人物の行動に着目させる。</li> </ul>	<p>ア 進んでげきあそびに取り組み、楽しんでいる。</p> <p>【練習の様子及びげきあそび】</p>

IV 本時の指導構想

1 本時の指導

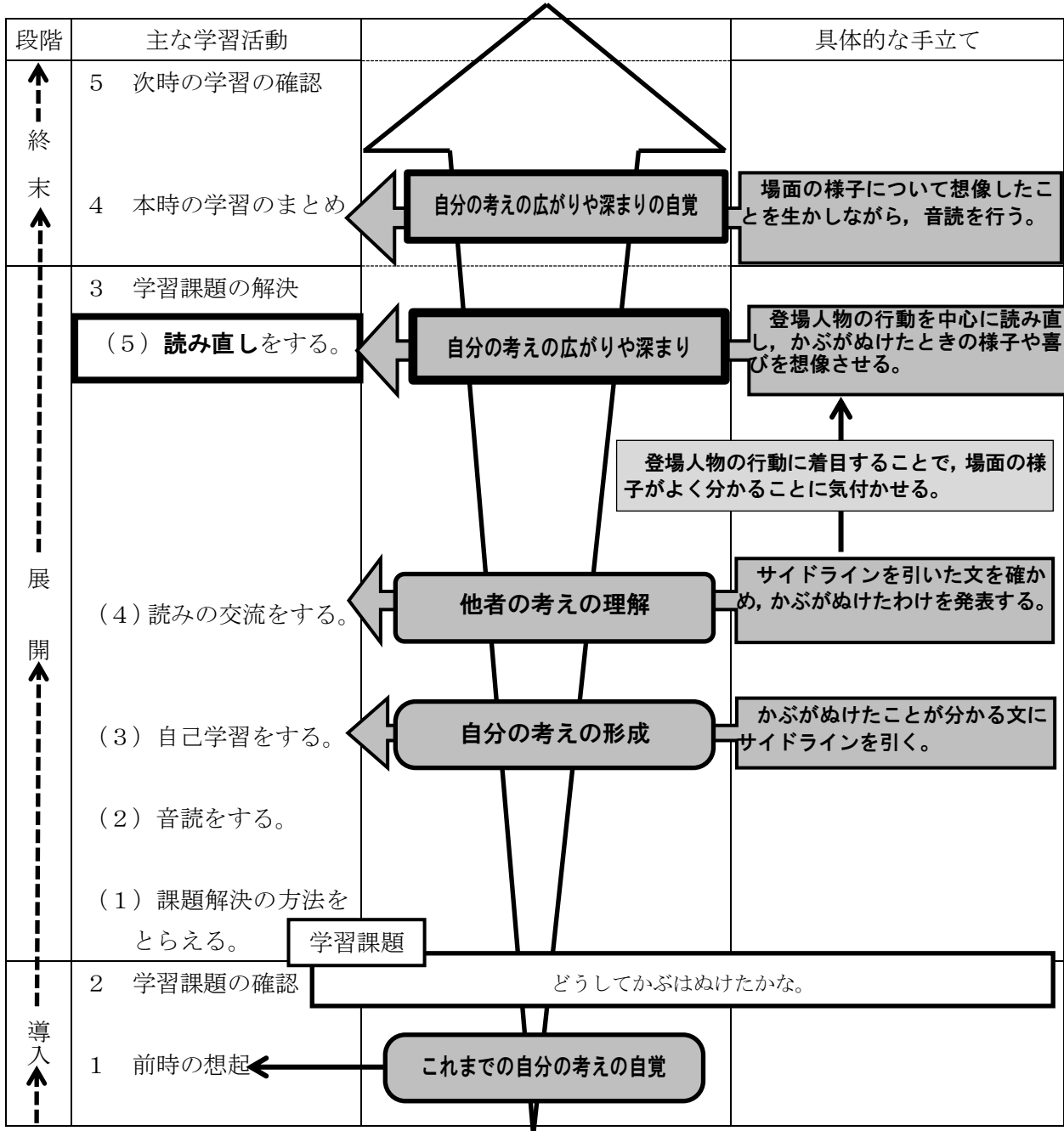
文章を読み、考えを広げたり深めたりする子どもが育つ授業

授業像

子どもが文章を読んで自分の考えを広げたり深めたりし、自分の考えを表現することができるよう、「読むこと」の単元における第二次の中心学習材の内容を読み取る場面において、友達によりよい考えを理解しながら中心となる文や叙述を読み直す学習活動を位置付けた授業

子ども像

文章を読み、知識や経験と結び付けながらもった自分の考えに、他者のよりよい考えを取り入れることによって、物の見方や考え方を広げたり、自分の思考を論理的なものにしながら深めたりし、話したり書いたりすることを通して自ら表現する子ども



2 目標

かぶがぬけるまでの登場人物の行動に着目し、かぶがぬけたときの様子を想像することができる。

3 展開

段階	学習活動と内容	時間	指導上の留意点 評価
導入	1 前時の学習内容の振り返りをする。	2	◇ 学習計画表を見て、繰り返しのある本を読んで、げきあそびをするという単元のめあてに向けて学習を進めていることを確認する。 ◇ 前時は、かぶをぬこうとする登場人物の様子を想像したことを確認する。
	2 本時の学習課題をつかむ。  どうしてかぶはぬけたかな。	5	
展開	3 学習課題を解決する。 (1) 課題解決の方法をとらえる。 ○ 学習課題を解決するためにかぶを引っ張っている登場人物とその様子を確認する。 ・疲れている。 ・息が合わないな。	3	◇ 疲れている気持ちやなかなか呼吸が合わない登場人物の様子を全体で確認する。
	(2) 音読をする。 ○ かぶがぬけた場面を音読する。	5	◇ 音読する際には、かぶがぬけたことが分かる文を見つけながら読むようにさせる。
	(3) 自己学習をする。 ○ かぶがぬけたことが分かる文にサイドラインを引かせる。	5	◇ 教科書に全員で引くことにより、場面の状況の変化を確認し、どんな変化によってかぶがぬけたかを考えさせることに繋げていく。
展開	(4) 読みの交流をする。 ○ かぶがぬけたわけを考え発表する。 ・ねずみのおかげだ。 ・みんなで引っ張ったから。	5	◇ かぶに対する力の軽重や登場人物の行動、会話に基づいて考えを発表させる。 ◇ 発言を板書に位置付けることにより、友達よりよい考えに気付くことができるようにする。
	<b>研究にかかると具体的な手立て</b> (5) 読み直しをする。 ○ 「うんとこしょ、どっこいしょ。」の部分を読み直し、かぶがぬけるまでの様子を想像する。 ・もう少しだから最後まで引っ張ろう。 ・今までで一番力が入った。 ・あと少しだ。頑張ろう。 ・やっとぬけたんだね。	10	◇ 「うんとこしょ、どっこいしょ。」の読み方の根拠を登場人物の行動を表す叙述や挿絵をもとにして考えさせることで、気持ちを合わせている様子や力を最後まで入れている様子、かぶがぬけた喜びを想像する。
終末	4 本時の学習のまとめをする。 ○ 場面の様子を想像したことをもとに、音読する。 ・みんなで力を合わせたから、大きな声で読もう。 ・「とうとう」に力を入れて読もう。 ・「どっこいしょ。」の後、間をあけて読もう。	9	◇ 読み直しを通して学んだこととり入れ、音読に生かす。 ◇ 音読をする際には、音読の工夫の根拠も説明させる。  登場人物の行動から最後まであきらめずにかぶをぬこうとする様子やぬけたときの喜びを想像している。 【音読】
	5 次時の学習の見通しをもつ。	1	◇ 次の時間は、げきあそびを行うことを確認する。